

此の好期に當り熱の冷めざる内こそ宗教家の最も奮起すべき時である。虚偽多き社會に懺み苦しんでゐる總ての人々を救はんとする重大な責任ある事を忘れてはならない。苦惱多き社會の眞只中に立つて己れの本分の爲に戦へオ、その熱!! その健闘、それは第二の文化即精神文明の建設である、只それは血燃え肉躍る吾々宗教家に於てのみ築き上げられるのである。

茲に吾同窓會文學部の樓神は布教傳導の一として毎年一回發行となつて居るのであるが、長い間吾々共の宿望たりし圖書館の設立が本年の大會に於て決議され、その設立費に充つるべく向ふ數年間樓神を中止する事になつた。

次に本誌の發行が慮外遅れた事は誠に止むを得ざる事情ありてとは云へ自責の念に堪えない。

今まで雑誌縦覽所に備へ付けし雜誌中やはり圖書館設立費に充つべく寄贈雜誌を除く外全部撤廢する事と決議された最後に本會へ書籍雜誌を御贈與下されし諸氏に對し深く感謝の意を表する次第である。

今、雑誌寄贈者の芳名を示さば

- 大崎學報(東京立正大學) 天業民報(天業民報社)
- 日宗新聞(東京日宗社) 身延教報(身延教報社)
- 立正(高杉立正社) 覺醒(大阪覺醒團)
- 雄辯、現代、改造、中央公論、婦人公論(東京望月軍四郎氏)
- 唯一(大阪覺醒團) 傳導(大阪傳導社)
- 三寶(東京森江書店) 宣明庵(日蓮妙龍會)
- 閉の光(京城閉教社) 信友月報(名古屋信友會)
- あさひ(大阪あさひ社) 立正教報(神戸立正社)

國際畫報(東京、高橋榮教君、森田一擁君、結城瑞光君)
以上 (松村生)

運動部報

運動!! 此の言葉はなんとなく力強い感と興え、春の若葉萌立つ様な青春の意氣が窺われる。世の向上發展と共に運動は世界的に旺盛になつて來た。而も近時運動熱の旺んな國程先進國なる事は事實で運動が眞に理解されて來た事であると思ふ。或る人は云ふ「三寸の舌頭長く大政を左右す」亦或る人は云ふ「住して目を千里の外に走らす」大いに然り、文辯能く人心を指配し國の危急存亡を救ふ而し文辯亦肉体を離れては存せず、故に其人の功績の大小は纏べて身体の健不健に依る事は言を要しない、今や國事多端の時「健全な精神は健全なる身体に宿る」千古不磨の金言は益々其の光輝を新に出來たのである。此處に於てか眞の寔光土世界の靈山たる靜かな祖山に學ぶ我等も唯本化前頭の大法を學ぶと云ふ事のみを以て足れりとして居られない。渦巻く社會の人心を觀ては今更に現在將來の多事を思ひて身体の鍛錬に志さずには居られない、昨秋震災の影響で我部設備の完全は期して得ざりしも斯ふした眞の意味の運動に志す人の逐次にふへて來た事は眞に喜ばしき事である。

○庭球部の如きは全生徒の半數を占め日曜日の如きは二三十人のユニホームの姿が入り交りて奮闘する様は此れが伽藍佛敎の奥殿に住む人の様には思へない技術の如きも日々上達して春秋二度の試合などには物凄いシーンを見せてゐる。

□弓術部 も追々に旺んになつてきて目錄以上の人が三人も居る。

我國特有のものだけに靜かに悠々と一種異様な緊張を見せて引続
つた姿群寂を破る命中の音流石に昔を偲ばせる觀に部員の誇りとす
る所である。

最後に會員諸君「永世の闇を照すてう燈臺守は誰なるぞ」と歌ひ
叫ぶ諸君よ。眞の意味に於ける運動をして益々發達せしめ以て心身
共に壯健を期し此の校歌をして意義あらしめん事を望んで止まぬの
である。(靈峰生)

